建設経済常任委員会

商工観光業の振興策について

平成十四年十一月一九日から二〇日までの二日間、熊本県八代郡宮原町と菊池郡の合志町等で調査を行った。

まず、宮原町では、商工会を訪ね、商工業振興の取り組みについて調査した。商工会の概要は、会員数一七六人で、商業の現状と動向としては、熊本市や八代市といった大型商圏の影響、近隣市町に大型ショッピングセンターが開店したこともあり、厳しい状況にある。

事業のひとつである買物支援システム実験事業は、青年部がTMO活動の勉強会を進めてきたなかで、インターネットを利用した買い物事業の発案がなされたことに始まる。商売の原点は、「ご用聞き」と「配達」であり、現在に即した方法で実践することが、商店街に残された活性化策であるということから、実施することになった。事業概要は、インターネット上に、宮原町商店街の仮想商店街を構築し、パソコンを端末として利用し、登録した高齢者等が買い物を行う。発注されると、各商店は発注商品を本部へ決められた時間に納品し、本部スタッフが配達と集金まで行い、翌日清算をするシステムである。登録商店は、食料品、日常雑貨店を中心に、約五一店舗が加入、年会費一万円を負担している。このような事業展開の効果として、IT化の促進が図られたことや買い物手段の一つとして、定着したことがあげられる。

宮原町の商工会を調査

また、商工会婦人部の活動として、環境問題への積極的な取り組みがある。宮原町は、下水道普及率九九％と熊本県内一を誇り、「熊本県ホタルの里百選」にも認定されたほど水のきれいな町である。近年、町を流れる河川が、合成洗剤等により汚濁が進んでいることから、商工会女性部でも自然にやさしい石鹸等の斡旋、販売等を行う一方、環境問題、水の問題に関するフォーラムや勉強会にも積極的に参加した。そのなかで、米のとぎ汁が、川の汚濁に悪影響を及ぼすことがわかり、米のとぎ汁を集め、これに微生物を加えて発酵させた「EM発酵液」を製造し、毎日ペットボトル約八〇本に詰めて、町内の学校、役場、病院、事業所等に無料配布している。この発酵液は洗剤、液肥、消臭といった用途に広く活用されている。川や下水道を大切にする支援がまちづくりに役立ち、さらに商工会活性化の一環になれたらと、積極的に活動がなされている。

菊池郡合志町にある「熊本県農業公園」は、総面積二三・二㌶で、平成三年に約三七億円を投じて整備された有料公園である。建設にあたっては、「県民の農業理解の場の創出」、「自然・緑に親しむ、いこいの場の提供」、「農業情報発信基地の創設」の三つの基本理念がある。

施設の内容としては、大別して四つのゾーンからなり、それぞれ特色のある整備が図られている。県都に近いこともあり、「県民の憩いの場」として利用も高く、平成十二年には開園からの入園者が六〇〇万人を突破した。